

ココ、ドコ？～自分で考えて遊び学ぶ小学校～

15. 作品— 99. その他 1140012 和泉絵梨香
 自主性 遊び場 町 指導教員 渡辺 菊真
 自然 迷路 子供

1. はじめに

近年、学校は塀で囲まれており、入ることも子供たちの姿も見ることが出来ない。それは、外部の人が容易に入れられないようにするためだろう。しかし、塀があることでとても閉鎖的な印象を受ける。これは山や川においても同じことが言えるのではないだろうか。子供に対して過保護になり、入れない場所が増えている。それに比例するように子供の自由な発想や冒険心が育たなくなるのが現状である。また、校舎は機能性を求めて、画一的であることが多い。毎日同じ道を通り教室に行くのでは面白くない。

本設計では、小学校に入りやすいようにすると同時に、迷路のような空間をつくることで自由な発想や冒険心を育てる。そして、これらを身に付けることで自分から山や町へ行くきっかけとなる小学校の提案をする。

2. 敷地

2-1. 対象敷地の位置



図1. 対象敷地の位置図

対象敷地として選んだ場所は、高知県高知市東秦泉寺にある泉野小学校である。高知駅から2km北に位置している。イオンモール高知北側の県道の通りに比べ、細い道が多くあり、自然に囲まれた場所に小学校がある。

2-2. 泉野小学校の現状

泉野小学校は、町と山に囲まれており、その間には10m程の擁壁が立ちはだかっている。そのため、町から小学校の様子を伺うことは出来ない。



図2. 敷地写真

また、画一的な校舎であり、長方形の形をした建物に均質な窓が並んでいる。面白くない、よく目にする校舎である。

周辺には山や水路があり、自然豊かな良い環境であるが、切り立った壁などにより侵入できない。



図3. 敷地写真

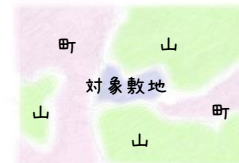


図4. 対象敷地周辺図

3. 設計

3-1. 全体構成

3-1-1. グランドデザイン

閉鎖的な印象を与える擁壁を取り除き、緩やかな斜面にすることで、町や山に行き来しやすくする。

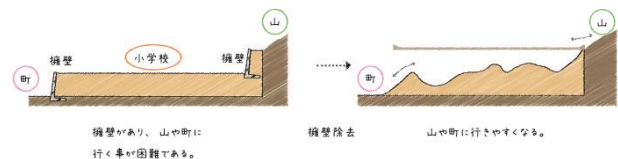


図5. 山、町と小学校の関係

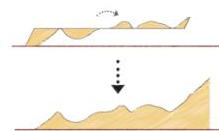


図6. 土のダイアグラム

その時、取り除いた土は利用し、土の量は変わらないようにする。自由な起伏のグランドデザインとする。

3-1-2. 校舎（下部空間）

複数の教室が一体となっている現在の校舎を教室一つ一つにし、分散させ、ランダムに配置する。自由な起伏に校舎を配置することで、迷路のような空間ができる。また、地面と教室の間の隙間が新たな遊び場となる。

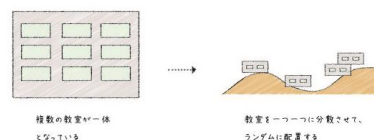


図7. 校舎の配置のダイアグラム

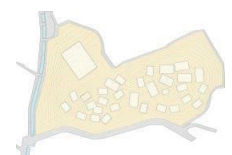


図8. 教室の配置図

3-1-3. 大屋根（上部空間）

大屋根は、直接山に行ける高さで設計する。



図9. 大屋根

また、屋根に楕円型のトップライトを設け、オープンスペースに光が入るようにする。ガラスは屋根の床面と同面にし、運動場で遊んでいる子供たちに影響がないようにする。

3-1-4. 上部空間と下部空間

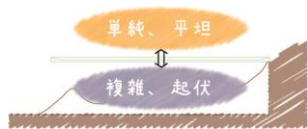


図10. 上部空間と下部空間

校舎のある下部空間と大屋根のある上部空間は、対照的なものになる。上部空間は平坦で単純な構成とし、下部空間は自由に起伏した地形と迷路のような複雑な構成となっている。

3-2. 下部空間の構成

3-2-1. 教室

光が多く入る南側にクラスルームを配置し、北側に特別教室など普段あまり使わない教室を配置する。

教室が斜面地にあるため、水平面を確保するには床や天井を支える構造が必要である。そこで、教室の外周に沿って地面から屋根までつながる帯状の壁を2つ設ける。すべての教室が同様に支え合っており、大きな屋根も支える役目をしている。壁によって複雑になり、迷路のような空間が出来る。

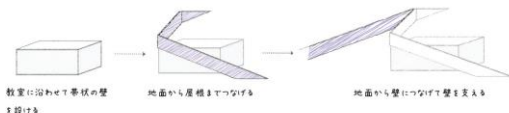


図11. 教室のかたち

3-2-2. 通路

通路は、教室の屋根の上と地面に通路を設けることで上の通路と下の通路が交差する。また、起伏によって上下にも複雑である迷路のような通路となる。

地面にある通路は、1学年の1～3組にのみつながっている。また、教室の屋根の上を通る通路は、すべての屋根を通れるようになっている。さらに、帯状の壁に沿わせて大階段を設ける。

3-2-3. オープンスペース

教室の屋根を通る通路には1学年に1つオープンスペースを設ける。子供たちが遊びながら他の人と交流できる場所とする。



図12.1階全体平面図



図13. 2階全体平面図

3-3. 上部空間の構成

3-3-1. 運動場とプール

大屋根には、運動場とプールを設ける。

プールは、浅いプールと深いプールを設け、低学年と高学年用に分ける。また、深いプールの底はガラスを使用し、下部空間から見ると水面が揺らぐ様子が見える。

3-3-2. トップライト

螺旋階段をガラスの筒で囲むことで、光が反射し下部空間に光が入るようにする。

3-4. 連続空間

上部空間と下部空間をつなぐものとして、螺旋階段と教室の屋根にある大きな階段がある。

螺旋階段は、各学年に1つと特別教室、図書館、保健室、体育館に一つずつ設け、計11個が大屋根の上に繋がっている。また、目的の教室への行き方が分からない場合、螺旋階段で大屋根まで上がり螺旋階段の屋根の色で判断することで目的の教室に行くことができる。教室の屋根にある階段は、教室の支えとなる壁に沿って上がっており、大屋根につながっている。

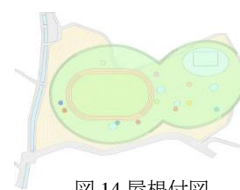


図14. 屋根付図

4. まとめ

擁壁を取り除くことで、町や山に行き来しやすくなり、地域の人が小学校に入りやすい開放的なランドデザインになったと考える。下部空間は開放的である一方、教室や通路によって迷路のような空間ができ、毎日同じ道ではなく自分で行く道を選ぶことで、その時々によって変化のあるものとなった。自由な発想や冒険心をかきたてる空間が出来たと考える。そして、子供たちの活動の場が広がっていくことを期待したい。

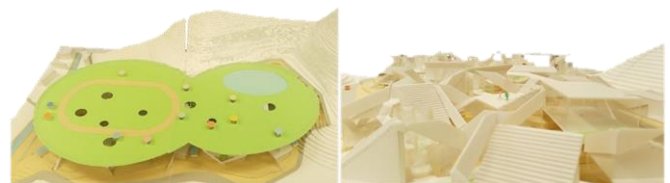


図15. 模型写真